

# 第62回近代五種全日本選手権大会

(令和4年11月18日~19日 会場：静岡県御殿場市)



うちだ みさき  
**内田 美咲**  
3等陸曹

おおにし しょう  
**大西 渚生**  
3等陸曹

**初優勝**

令和4年11月18日(金)から19日(土)までの間、第62回近代五種全日本選手権大会が静岡県御殿場市において行われた。自衛隊体育学校からは、第2教育課近代五種班嶋野光2等陸曹以下12名が出場し、男子種目で大西渚生3等陸曹が、女子種目でも内田美咲3等陸曹が初優勝し、男女そろっての優勝に輝いた。  
今大会は、国際基準に基づいて行う国内初の大会となった。1日目に馬術を除く4種目でセミファイナルまで競技し男女ともに上位8名(W杯は16名)が翌日のファイナルに進出し、5種目で争った。

## 内田 レーザーランで 逆転優勝

内田3曹は、初日のセミファイナル4種目を持ち前の総合力で、1位通過した。翌日のファイナルは水泳から始まり、この種目を得意とする内田3曹は、200mを2分11秒95で泳ぎ種目別1位で勢いをつけたが、続く馬術では上手く合わせることができず、36点減点(264点)で種目別7位となり、全体の順位を1つ下げ2位となった。  
この時点で、1位はフェンシングを得意とし、全日本優勝経験のある才藤夢選手(マイナビ)。次のフェンシングでも才藤選手との差を詰めることができず、才藤選手が829点、内田3曹が801点の2位で最終種目レーザーランを迎えた。  
レーザーランは、ここまでの3種目(水泳・馬術・フェンシング)の合計点を1点1秒で換算し、上位者からスタートを切り、ランと射撃を交互に行い(ラン600m×5回・射撃10m的に5発×4回)その後ゴールした順位で勝敗を決定する。このまま逃げ切りしたい1位の才藤選手からスタートし、28秒後、2位の内田3曹がスタートし徐々に才藤選手との差を詰め、3回目のラン500m付近で才藤選手を捉え、トップで4回目の射撃を迎えた。射撃でやや遅れをとったが、その後のランで再びトップとなり初優勝を飾った。  
試合後、内田3曹は「率直に優勝できて嬉しいし、ほっとしている。これまでの全日本は悔し涙で終わることが多く、今年は優勝して嬉し涙を流すことができてよかった。また、ここまで支えてくれた周囲の方や家族に本当に感謝している。しかし、この優勝は1つの通過点でまだまだ強くならないといけない。今まで以上に努力して結果に繋げたい。」と語った。

内田3曹は、初日のセミファイナル4種目を持ち前の総合力で、1位通過した。翌日のファイナルは水泳から始まり、この種目を得意とする内田3曹は、200mを2分11秒95で泳ぎ種目別1位で勢いをつけたが、続く馬術では上手く合わせることができず、36点減点(264点)で種目別7位となり、全体の順位を1つ下げ2位となった。  
この時点で、1位はフェンシングを得意とし、全日本優勝経験のある才藤夢選手(マイナビ)。次のフェンシングでも才藤選手との差を詰めることができず、才藤選手が829点、内田3曹が801点の2位で最終種目レーザーランを迎えた。  
レーザーランは、ここまでの3種目(水泳・馬術・フェンシング)の合計点を1点1秒で換算し、上位者からスタートを切り、ランと射撃を交互に行い(ラン600m×5回・射撃10m的に5発×4回)その後ゴールした順位で勝敗を決定する。このまま逃げ切りしたい1位の才藤選手からスタートし、28秒後、2位の内田3曹がスタートし徐々に才藤選手との差を詰め、3回目のラン500m付近で才藤選手を捉え、トップで4回目の射撃を迎えた。射撃でやや遅れをとったが、その後のランで再びトップとなり初優勝を飾った。  
試合後、内田3曹は「率直に優勝できて嬉しいし、ほっとしている。これまでの全日本は悔し涙で終わることが多く、今年は優勝して嬉し涙を流すことができてよかった。また、ここまで支えてくれた周囲の方や家族に本当に感謝している。しかし、この優勝は1つの通過点でまだまだ強くならないといけない。今まで以上に努力して結果に繋げたい。」と語った。



トップを走る才藤選手を捉えた内田3曹

## 大西 悲願の 初優勝

大西3曹は、初日のセミファイナル4種目を持ち前の総合力で、1位通過した。翌日のファイナルは水泳から始まり、この種目を得意とする大西3曹は、200mを2分11秒95で泳ぎ種目別1位で勢いをつけたが、続く馬術では上手く合わせることができず、36点減点(264点)で種目別7位となり、全体の順位を1つ下げ2位となった。  
この時点で、1位はフェンシングを得意とし、全日本優勝経験のある才藤夢選手(マイナビ)。次のフェンシングでも才藤選手との差を詰めることができず、才藤選手が829点、大西3曹が801点の2位で最終種目レーザーランを迎えた。  
レーザーランは、ここまでの3種目(水泳・馬術・フェンシング)の合計点を1点1秒で換算し、上位者からスタートを切り、ランと射撃を交互に行い(ラン600m×5回・射撃10m的に5発×4回)その後ゴールした順位で勝敗を決定する。このまま逃げ切りしたい1位の才藤選手からスタートし、28秒後、2位の大西3曹がスタートし徐々に才藤選手との差を詰め、3回目のラン500m付近で才藤選手を捉え、トップで4回目の射撃を迎えた。射撃でやや遅れをとったが、その後のランで再びトップとなり初優勝を飾った。  
試合後、大西3曹は「率直に優勝できて嬉しいし、ほっとしている。これまでの全日本は悔し涙で終わることが多く、今年は優勝して嬉し涙を流すことができてよかった。また、ここまで支えてくれた周囲の方や家族に本当に感謝している。しかし、この優勝は1つの通過点でまだまだ強くならないといけない。今まで以上に努力して結果に繋げたい。」と語った。

大西3曹は、初日のセミファイナル4種目を持ち前の総合力で、1位通過した。翌日のファイナルは水泳から始まり、この種目を得意とする大西3曹は、200mを2分11秒95で泳ぎ種目別1位で勢いをつけたが、続く馬術では上手く合わせることができず、36点減点(264点)で種目別7位となり、全体の順位を1つ下げ2位となった。  
この時点で、1位はフェンシングを得意とし、全日本優勝経験のある才藤夢選手(マイナビ)。次のフェンシングでも才藤選手との差を詰めることができず、才藤選手が829点、大西3曹が801点の2位で最終種目レーザーランを迎えた。  
レーザーランは、ここまでの3種目(水泳・馬術・フェンシング)の合計点を1点1秒で換算し、上位者からスタートを切り、ランと射撃を交互に行い(ラン600m×5回・射撃10m的に5発×4回)その後ゴールした順位で勝敗を決定する。このまま逃げ切りしたい1位の才藤選手からスタートし、28秒後、2位の大西3曹がスタートし徐々に才藤選手との差を詰め、3回目のラン500m付近で才藤選手を捉え、トップで4回目の射撃を迎えた。射撃でやや遅れをとったが、その後のランで再びトップとなり初優勝を飾った。  
試合後、大西3曹は「率直に優勝できて嬉しいし、ほっとしている。これまでの全日本は悔し涙で終わることが多く、今年は優勝して嬉し涙を流すことができてよかった。また、ここまで支えてくれた周囲の方や家族に本当に感謝している。しかし、この優勝は1つの通過点でまだまだ強くならないといけない。今まで以上に努力して結果に繋げたい。」と語った。



接戦で会場を沸かせた佐藤3曹と大西3曹

総合成績 (ファイナル進出者)	
男子	優勝 大西 渚生 (宮崎県) 第3位 佐藤 大宗 (青森県) 第5位 嶋野 光 (神奈川県) 第7位 藤巻 啓太郎 (石川県)
女子	優勝 内田 美咲 (埼玉県) 第4位 梅村 華苗 (兵庫県) 第6位 桑名 知可子 (福岡県) 第8位 田口 そよ風 (岐阜県)
団体	優勝 自衛隊A 嶋野 光 佐藤 大宗 大西 渚生



アベック優勝と団体優勝を飾った近代五種班